編集委員が行く

「働く障害者からの発信」

――心のバリアフリーをめざして――

私たちのこと深く理解して

①かんでんエルハート杉本久美子さん　②オムロン太陽、江藤社長（車いす）　③ソニー太陽　④オムロン太陽
⑤かんでんエルハート伊藤知我子さん　⑥三菱商事太陽　⑦ソニー太陽　⑧ソニー太陽　⑨ホンダ太陽　⑩ホンダ太陽

取材先会社一覧表

社名	（ホンダの特例子会社）ホンダ太陽㈱ ホンダR&D太陽㈱	（三菱商事の特例子会社）三菱商事太陽㈱	（オムロンの特例子会社）オムロン太陽㈱	（ソニーの特例子会社）ソニー・太陽㈱	（関西電力の特例子会社）㈱かんでんエルハート
所在地	（本社、別府工場）別府市内かまど（日出工場）大分県日出町	（本社）別府市亀川	（本社）別府市内かまど	（本社、工場）大分県日出町	（本社）大阪市住之江区
生産品目 業務内容	二輪・四輪車の部品製造	コンピュータのソフト開発で主に三菱商事㈱総務、人事システムの開発、維持、管理	産業用のパワーリレーに使用するソケットの生産	マイクロホン、ラジオ、ヘッドホン、メモリースティックなどの生産	デザイン、印刷、花の栽培、メールサービス、ヘルスケアーなど
従業員数 うち障害者	153人 うち（肢体不自由者 69 聴覚言語障害者 6）	34人 うち（肢体不自由者 23）	45人 うち（肢体不自由者 25）	172人 うち（肢体不自由者 80 聴覚言語障害者 27）	134人 うち（肢体不自由者 26 聴覚言語障害者 8 視覚障害者 10 知的障害者 48）

本誌編集委員　株式会社かんでんエルハート 参与　戸田幸彦

社会のバリアフリーが進み、多くの障害者が行政・企業・福祉の世界で働き、糧を得て、街で豊かな生活をエンジョイする時代になってきている。

皆が、たとえ障害者であっても、ごく当り前に生活できる社会、いわゆるノーマライゼーション、障壁のない社会が進行しているのは喜ばしい限りである。が、依然として社会の隅々で障害者に対する理解・認識不足や、予断や偏見をもって見て接していないだろうか。

そこで今回は、車イス者・聴覚言語障害者が多数働いている別府市太陽の家グループのホンダ太陽㈱、ホンダR&D太陽㈱、三菱商事太陽㈱、オムロン太陽㈱、ソニー・太陽㈱の皆様に、そして視覚障害者が多数働いている大阪市の㈱かんでんエルハートの皆様に、それぞれ日常の自分の思いや考えを発信してもらいました。これを皆が理解して、心のバリアフリーが少しでも推進できればと願っています。

車イス者編

■車イス者の障害に理解を

一般的に車イス者は足が悪いと思われがちです。確かに足に障害があるために車イスを利用している人もいますが、他にも足の形状は普通でも、脊髄や脳に機能不全があって車イスを利用する人もいます。

いわゆる脊髄損傷といわれて、交通事故、高所からの転落、海・プールでの飛び込み事故などによって、背骨の中の脊髄（中枢神経）が損傷すると、脳の命令が伝達されません。そのため「運動機能（立つ、座る）」、「感覚機能（痛い、冷たい、圧迫感）」、「自律神経機能（発汗できない、体温調整不全）」、「排泄機能」に障害が生じ車イス生活になります。また、脊椎骨が先天的に形成不全となる二分脊椎症や脳性マヒの人などもいろんな複合機能障害を伴い、車イスを利用しています。そこで車イス者の障害の内容は、個々に多様である認識が必要となります。

■車イス者からの発信

◎見かけで判断し、何もできないダメな人と勝手に思っていませんか。

●企業では車イス者が社長を務めたり、管理職に就いている人がいます。例えばオムロン太陽の江藤社長、御前工場長、田部課長も車イスです。パソコンを駆使する有能な車イス者では、三菱商事太陽㈱の山下次長、堀口課長、野原課長、佐藤課長などがおられます。

●ソニー・太陽㈱で、プロ向けヘッドホン（売価約三〇万円）を車イス者がひとりで全工程をこなし、一日に四個も生産するすばらしい万能工と出会いました。

●パソコン講座で車イスの講師が教室に入ると、受講生から「君が先生か？」という顔をされる。逆に早く先生の顔を覚えてもらえる利点もあるが……。

●お客様苦情対応で、車イス者が出ると、「なんだ、君か？」と言われたり、そのようなそぶりをされる。「健常者出てこい！」と言わんばかりである。〔一人前だよ〕

●脳性マヒと聞いただけで「頭が悪い？」と判断される。自分は小児マヒで車イスだがハンディの意識ない。

●友人と買物に行くと、車イスの私が注文しても、答えは友人に返っていく。私が買う主人公なのに。〔主役に見られない？〕

◎特別でなく、普通に扱ってほしい。

●慰安会の行き先を決めるとき、車イス者が行動しやすい所を選んでくれるが、それは気遣いで、お客様扱いになります。特別に気を使ってくれると、心苦しくなる。皆が希望する場所を選んで、バリアがあれば、その時皆でサポートしてほしい。〔ごもっとも〕

◎車イス者には立った目線がない。

●健常者には「立つ・座る・寝る」の三つの目線位置があるが、車イス者との会話は極力座って目線を合わせてほしい。〔親子の会話も目線を合わせています〕

●車イス者が皆と立ち話していると、会

オムロン太陽
（写真右より御前照夫工場長、田部辰朗管理課長、江藤秀信社長、渡辺祐一さん、近藤秀樹さん）

ホンダ太陽
千葉英雄社長（写真右）と原田浩二工場長の説明で、日出工場を見学する筆者（写真左）

話（音声）は天井で飛び交っている。上を向かないと会話に入れない。〔井戸の底から話してる？〕

◎車イス姿をジロジロ見つめないで！

これがあたり前で恥でもなんでもないのです。

●高齢者社会になり車イスも珍しくなくなったが、幼い子供からは不思議がって「どうして車イスに乗っているの？」と聞かれる。親は「聞いたらダメ」と止める。また親は「車イス危ないから気をつけよ！」と子供に注意する。危なくない私の足の代わりだ。〔親の教育が必要だね〕

◎困ったとき、車イス者から「手伝ってくれませんか」と声をかけられるが（これは実は勇気の要ること）、できれば「お手伝いしましょうか？」と声をかけてほしい。〔思いやりのある社会を築く大切さ〕

●声をかけてくれても、自分の知識で勝手にサポートしようとしてくれる。これは断りにくい。同じ車イス者でも障害の部位によって異なるので、どうしてほしいか聞いてくれるとありがたいのだが。〔これから聞きますよ〕

●「手伝って！」と声をかけると、理解のない人はスーッと逃げてしまう。聞き取ってあげようと努力もしてくれない。困ったときの助け合いは、お互い様だと思うのだが……。〔さわらぬ神に祟りなしの精神か？〕

◎施設利用は健常者の考えで判断しないで車イス者にもトライさせてほしい。

●温泉施設での入場を断られた。「今まで入場させたことがない」、「安全確保できない。事故があったら困るから」と入場は無理と頭から決め付けている。「サポートしますから入場してみますか？」などトライさせて。無理かどうかは私たち自身に判断させてほしい。〔その前に完全にバリアフリーであってほしいが……〕

◎車イス者は重い荷物が持てない。床の物を持ち上げられない。高い位置の物も取れない。できないことはできないのだが、常に支え助けてもらう関係だけではダメだ。パソコンなど得意分野で皆のサポートをして役に立ちたい。〔ごもっとも〕

◎車イス者の子育て。

●野球・サッカーなどスポーツの相手はしてやれない。車イステニスはできる。

●子育ての手伝いができない。床をはう子供が泣いても抱き上げ、あやすこともできない。

●子供を風呂に入れられないし、オムツも交換できない。

●スーパーで子供が勝手に階段を上がっていくが、追いかけられない。

●子供の野球を応援に行き、車イス姿を色メガネで見られ、戸惑ったこともある。自分と違う世界があることを少年たちに学んでもらったと思う。〔百聞一見に如かず〕

◎物理的バリアフリー（段差をなくす、エレベーターを設置するなど）を推進してほしい。

●設備のバリアは改善されてきているが、使いにくい場合があるので、設計者は自分の知識で判断せず、使用する車イス者の意見を求めてほしい。〔障害部位によって使い勝手異なりますよ〕

●コンビニの出入口は自動ドア、またはタッチ式自動ドアーでないと入れない。引き戸、押し戸は力が要り開けにくい。〔早急に改善を〕

●駐車場に車イス専用スペース設けているのに、健常者が使わないようコーンを置いている。ガードマンがいないと使えない。車イス者は、停車して車イスを降ろしてコーンを自力で移動させ、また車イスを車に積んで車を移動させて駐車。また車イスを降ろして店に入ることになります。〔面倒なことといっぱい〕

◎誤解を解いてほしい。

●車イス者がトイレに長くいると、サボ

三菱商事太陽
（写真左より野原崇之課長、堀口彰彦課長、佐藤隆信課長、山下達夫次長）

ソニー太陽とホンダ太陽で働く聴覚障害者の皆さんと手話での取材

っていると思われるが、実は排泄処理に手間と時間がかかるためであり、ただらけている、だらしがない格好をしていると見られることもあるが、これも体温調節などできないためであることを理解してほしい。

聴覚言語障害者編

■聴覚言語障害者への理解を

全く聞こえないために言葉の出ない人、補聴器をつければ少しは聞こえるが、言葉が出なかったり、不明瞭ながら言葉の出る人、聞こえないけど言葉の出る人（後天性失聴）など、聴覚と言語の障害は個々さまざまで、それによってコミュニケーションの方法も全く異なってくることを知らなければ、いろいろと誤解を招くことになります。

コミュニケーションの手段は、手話、指文字、口話（こうわ）、筆談、要約筆記、空書（そらが）きがありますが、これも人によって使い方はさまざまで、手話と指文字による人、口話しかできない人、手話も口話もできなくて筆談に頼る人などいろいろです。

近年はインターネットで情報を入手したり、Eメールで聴覚障害者同士、また健聴者とのコミュニケーションの機会が増えてきました。すばらしいことです。〔Eメールは聴覚障害者のために開発？〕

■聴覚言語障害者からの発信

◎友達ができない。私から声がかけられないので、健聴者から勇気を出して働きかけて、筆談してほしい。〔小さな勇気でよい〕

●国際アビリンピックで、知らない外国人同士が最初に交流を始めるのは、聴覚障害者だ。要はジェスチャーでコミュニケーションを図らざるをえないから。英会話のできない健聴者が、外国人と何とかコミュニケーションしようと工夫するのは、身振り、手振りの世界ではないか。〔納得〕

◎音声情報が少ないぶん、常識に欠ける面があるかも知れないが、それは私個人の責任ではないと思う。〔全くその通り〕

◎交通事故で調書を書くとき、筆談してくれればいいのに、親に電話して助けを求められた。私はもう立派な大人だ。私が主人公だと言いたい。〔ごもっとも〕

◎無理に発声していると変な声になるので、外国から来たのと間われ、変な目で見られた。〔慣れてないから？〕

◎洋画には字幕があって理解できるが、邦画には字幕がないので解らない。洋画の字幕をなくすために吹き替えされると全く理解できない。〔その通りだ〕

●テレビ放送に字幕がついてきたので理解できるようになった。スポーツなどの実況中継は字幕がないから選手の動きだけで理解しているが、解説や歓声は解らない。〔無声映画？〕

◎文字視覚情報を増やしてほしい。東京のJR山手線の電車には、「次の停車駅は、乗り換えは」など文字情報が流れている。健聴者向けと思われるが、私たちにもよく理解できるし、事故時アナウンスされても聞こえないが、文字情報で安心できありがたい。〔車中が静かになった〕

◎飲食店のメニュー表は詳しく書いてほしい。例えば料理によってかけるソースの種類の選択を求められても通じない。最初からメニューに表示されていると、読んで指で「これ！」と答えられる。

◎コミュニケーションの手段として、筆談が確実で良いと思う。

●家庭の教育方針でろう学校には行かず、普通学校を卒業してきたので、筆談しかできない。

●口話（こうわ）は読み違えることがあるし、あいまいなとき、聞き返すのは失礼と思い、想像して意味をつかむときがある。その場合、会話に誤解が生じていることがある。〔よくあるケース？〕

かんでんエルハート。盲導犬のキルトと共に働く樋尻博美さん

羽曳野市のセンターで活躍する田中宏和さん

●手話にも方言があります。全国で統一してほしいと思うが、地方〳〵の手話も伝統があり大切にしたい。〔標準語と方言があるように〕

●Eメールでの情報交換は早くて確実である。健聴者のために開発されたと思うが、私たちが重宝している。

●FAXも行政窓口、郵便局、コンビニ、病院などに設置され便利になっている。

◎補聴器は私のパートナーのようなもの。子供のとき周りの人たちからじろじろ見られ、嫌な思いをしたことがある。

◎〔今度生まれてくる時は、聞こえる人に生まれたいと思いますか？〕

●どちらでもよい。

●私は生まれつき耳が聞こえませんが、やはり聞こえない人に生まれて良かったと思います。この障害で多くの友達や先生、職場の人に出会えてきたからです。〔聞こえた世界を知らない人には愚問だったかも〕

視覚障害者編

■視覚障害者への理解を

◎視覚障害者といっても、視力に障害があって全く見えない人、ぼんやりと見えている人、明るさを少しだけ感じる人、また視野に障害があって、中心部だけが見えている人など障害の程度は人によってさまざまです。

◎視覚障害者には「点字」というイメージが強いようですが、実際点字が読めるのは一割以下と言われています。最近は音声認識ソフトを利用して、インターネットやEメールを使う人が増えています。IT技術の進歩は視覚障害者の生活にも、革命を起こしているといえます。

■視覚障害者からの発信

◎明暗の区別がありません。気持ちは暗く落ち込むことがありますが、暗闇の世界なんて知りません。モヤーとした世界で生きていますが、暗いとは思っていません。〔モヤーとした世界は本人のみぞ知る〕

◎見えない、イコール全く何もできない人と思われるが、できることとできないことがある。できないことをサポートしてほしい。〔当然です〕

●晴眼者は、視覚から情報の八〇％を得ています。それを私たちは聴覚、嗅覚、触覚で補って生活している。子供がころんだのは音で、料理がこげてきたのは匂いで、大根は触って理解します。晴眼者は五感で一〇〇％の生活をしているが、私達は四感で一〇〇％の生活をしようとしています。〔まったくだ〕

●移動の不自由が一番大変です。慣れるまでに時間がかかります。通勤訓練で地下鉄のホームの位置、車両の位置、ドアの位置、階段数など全部覚えます。音と白杖（盲導犬）が頼りです。

●野菜の鮮度を晴眼者は色で判断されるでしょうが、私たちは触って解ります。袋に包まれた商品は点字が打っていないから、手触りで判断しますが中身が解らないときがある。賞味期限も点字がないから解らない。〔サポートを必要とするときです〕

●服装の色彩は解らないから、店の指示どおりに買います。スーツの上下を勝手に取り替えて着ると、とんでもない配色になります。

◎点字ブロックに自転車など置かれると困ります。点字ブロックは車イス者には邪魔になるが、お互いにゆずり合うしかないのでは。〔そうだ〕

●エスカレーターで、上り・下りが同一場所にあるとき、その区別を手でベルトをそっと触って、または白杖の先で確認している。そのとき「危ない！」と急に手を引っ張ってくれるが、びっくりします。ひと声かけてほしい。

●ビルのエレベーターに乗るとき、「上り」がきたのか、「下り」がきたのか解らない。私の勤務する新関電ビルでは、上りが「ポンピン」と尻上がりの音、下りは「ピンポン」と尻下がりの音で知らせてくれるので便利だ。〔そ

田中宏和氏（34歳）
LICはびきの（大阪府羽曳野市立生活文化情報センター）グループ・マネジャー。市民のためのパソコン講座の企画・パソコン講師の指導を担当。

樋尻博美氏
大阪市立盲学校専攻科理療科卒業。㈱かんでんエルハートでヘルスキーパーを務めて10年のベテラン。盲導犬キルトと共に生活している。

編集委員の素顔　戸田幸彦
関西電力㈱の特例子会社「㈱かんでんエルハート」をゼロから立ち上げ現在参与。他に複数の社会福祉法人（知的・特養施設）の理事・評議員のかたわら講演活動中。

れは知らなかった」

●道路信号の「赤・青」は車の流れ音で察知しているが、点滅までの時間猶予が解らない。ひと声かけてほしい。

●工事中の道路でガードマンのいない夜間は、音声案内か点字シートを置いてほしい。危険です。

◎百貨店での買物はインフォメーションでケア・アテンドをお願いすると、付き添ってくれるので大助かりです。

「さすがです」

●音声パソコンのインターネットで、コミュニケーションの機会が増え世界がひろがった。うれしいことです。

障害者はかわいそうな人？

◎田中宏和さんの話

「あなたは足があって歩いているから、骨形成不全症で足が五〇センチぐらいしかない私の車イス姿を見て、言葉には出さないが、心の中で『歩けなくてかわいそうやなぁ、気の毒やなぁ』と私に一方的に慈悲・哀れみの気持ちをかけていませんか。

けれども、私は生まれてこのかた足が短くて歩けないから、『歩いたことがない。歩こうと思わない人間なんですよ』

その私に、あなたが歩いているからといって、私に一方的に『歩けなくてかわいそう、気の毒』と慈悲、哀れみの気持ちをかけてほしくない。ひとりの人間として対等に付き合ってほしい。ただ、段差とか階段はひとりで昇降できないので、その時はサポートして下さいね」

「ハイハイ、よく解りました」と私。

言われた当時は、晴天のへきれきで、「あぁそうなんだ！」と素直に脱帽したのを覚えています。

◎樋尻博美さんの話

「私は盲導犬とともに通勤中、町で信号待ちをしていると、親切な人が私の側に寄ってきて、『あなたは目が見えなくて、明暗がわからなくて、かわいそうですね。お気の毒ですね』とささやいてくれます。

けれども、私は未熟児網膜症で生まれてから見えた世界を知りません。『見えるって何？　明暗って何？』と私に聞かれました。

私は彼女に見えた世界の説明ができないので、『じゃ、あなたはどんな世界で生きているのですか？』と問いますと、『何かわかりませんが〝モヤー〟としていますよ』。続けて『私にはものごころがついてから、このモヤーとした世界があたり前なのですが、この世界で生きるには不自由がいっぱいあります。それが障害なのです。私がこのモヤーとした世界で、何不自由なく生活できるようになれば、私は障害者ではない』さらに、『目が見えないことが障害ではなく、見えないことによって、皆と一緒に生活できないことが障害なのです』」

私は目からうろこが落ち、バリアフリーとお互いに支え合う社会を築く必要性を痛感したのです。

◎重度重複障害者の親の話

私のひとり息子は、ダウン症による知的障害に加え、目も見えず、言葉も出ませんので、以前まで、〝かわいそうやなぁ〟と思って育ててきましたが、「あれを食べたい、あそこに行きたい」と自分の意思も言ったこともなく、唯一音の世界のみで、ひたすら支えられ生きている本人にとっては、これが至極あたり前なのかも知れません。

三七歳になる今日も時折、ところかまわずガスを発生したり、帽子をなげたりとたわいないことをしては、親を困らせたつもりで、純粋・無垢な天使の笑顔をふりまいてくれます。この子から生きる勇気、元気、エネルギーをあたえられる幸せを得ていますので、『幸せを運ぶ男、神仏の使者』と思っているのですが、今もこの子を不憫に思える時があるのは、やはり親なるが故なのでしょうか。